

出題分析		
試験時間 75 分	配点 150 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [ 減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加 ]		難易度変化 (昨年比較) [ 易化 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 難化 ]
<p><b>【概評】</b></p> <p>例年通り、大問 3 題で構成された。〔Ⅰ〕飛鳥・奈良時代の文化、〔Ⅱ〕中世の外交・交易、〔Ⅲ〕近世～近現代の日本における政治に関して出題された。昨年のような地図をもとに解答する問題や、今年の同志社大学入試日本史で多数みられた正誤判定問題はなかった。</p> <p>〔Ⅱ〕は空欄補充問題のみで構成されていたが、〔Ⅰ〕・〔Ⅲ〕は細かい知識を問う問題やリード文に関連させて設問文が長い問題が散見されたため、時間配分に気をつけたい。中国史に関する知識が要求された〔Ⅰ〕と近代史を問う〔Ⅲ〕(3)は出来が分かれるだろうが、〔Ⅱ〕と〔Ⅲ〕(1)(2)は全体的に標準レベルの知識で対応できるため、これらの問題で漢字のミスや設問文の見落としによる失点を避け、高得点を目指したい。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
〔Ⅰ〕	飛鳥・奈良時代の文化	<p>神田喜一郎「飛鳥奈良朝の書跡」『藝林談叢』(法蔵館, 1981 年) より、飛鳥・奈良時代の文化を主題に当時の中国の大勢についても問われた。他の大問に比べて細かい知識を要する問題が多く、知識量で差がつく問題構成であった。地図をもとに古代の東アジア諸国との外交が問われた昨年と同様に難しかったといえる。</p> <p>設問 a. 「楊堅」で覚えていたかもしれないが、語群では諡号の「文帝」を選ばねばならず、難。教科書記載の 600 年の遣隋使の史料では「開皇」が文帝の年号だと説明されているが、いずれにしても細かい知識である。設問イ. 日本史探究としては難。設問ウ. 設問文がやや回りくどいが落ち着いて解答してほしい。設問 b・e. 細かい知識が問われた。設問キ. 『続日本紀』によれば、確かに吉備真備と阿倍仲麻呂は唐で名声をあげているが、唐王朝に仕官し皇帝に重用された阿倍仲麻呂と同様に、「唐王朝で重用され」たといえるかは不明であり、『旧唐書』倭国日本伝でもそうした記述はみられない。設問ク. 設問文からの判断は難しい。</p>	やや難

設問別講評			
〔Ⅱ〕	中世の外交・交易	中世の外交・交易について、蒙古襲来後の日元貿易・日明貿易・日朝貿易、琉球・蝦夷ヶ島との交易と広く問われたが、語句記述問題・語群選択問題ともに基本的なものが多く、満点も可能であった。それだけに漢字表記のミスは痛手になる。 設問 1. イ・ウ. 祖阿と肥富を混同せず、それぞれ正しく書けたか。設問 2. c. やや細かい知識が問われた。	やや易
〔Ⅲ〕	近世～近現代の日本における政治	(1)で江戸時代の政治制度、(2)で享保の改革と農民の階層分化、(3)で明治政府による地方制度の確立をテーマにそれぞれ関連事項が問われた。 設問 2. 空欄(c)で迷ったであろう「大目付」は、老中の下で大名の監察にあたった。設問 4. 伊勢神宮の内宮・外宮の門前町があった宇治・山田から想起したいが、やや細かい。設問 6. 設問文がややわかりにくいだが、尾張藩の城下町を解答すればよい。設問 12. 「制」の漢字に注意したい。設問 13. やや細かい知識が問われた。設問 14. 郷里で佐賀の乱をおこした江藤新平と迷ったかもしれないが、「人材登用や殖産興業に尽力」という点から幕末の藩主にして藩政改革を行った鍋島直正を選べばよい。設問 16. 消去法で解答可能。設問 19. 迷ったであろう伊波普猷は沖縄の民俗学者で沖縄学を確立した人物である。	標準

#### 合格のための学習法

大半は教科書の内容に準じた標準的な設問で構成されている。特定のテーマや時代に偏ることなく学習を進めたい。同志社大学入試日本史では、細かい知識を要求する設問も散見されるので、用語集も活用して語彙や知識を増やしておこう。図説資料集は、文化史の学習で活用するのは当然だが、地図が多く掲載されており、日本国内の出来事と連動させて諸外国の動向について押さえるときにも有効であるため積極的に活用してほしい。また、年度・学部に関係なく可能な限り過去問演習をこなし、教科書や用語集とは異なる切り口で出題される問題や史料問題にも慣れておきたい。